

定年後の自由時間（余暇）を計算されたことはありますか？ ①65歳からの余命を20年②睡眠や食事等、生命維持に必要な時間を1日あたり10時間——としますと、およそ10万2200時間になります。これは、ほぼ50年にわたって週休2日での1日8時間働けるだけの膨大な長さです。余命は延びていますから、実際にはこれ以上に長くなる

家計にも「事業仕分け」を

浪花おふくろ投信代表取締役 石津 史子

と考えておいた方が無難でしょう。

こうしてみると、定年後のいわゆる「セカンドライフ」は、「おまけ」どころではありません。



何しろ、定年までに働く時間（40年前後）を

も上回るので、せっかくなので穏やかに、かつ味わい深く過ごしたいのですが、そのためには事前の準備と相応の覚悟が必要です。ところで、歳出の無駄

を洗い出す「事業仕分け」が27日に作業を終えました。これまで国民は、国の借金がぶくぶく膨らんでいくのをただ不安げに眺めているだけでした。

そんな中で行われた事業仕分けは、内容はともかく、現状を改善するため第一歩にはなるかもしれません。

事業仕分けの考え方は、定年後を視野に入れた家計の見直しにも有効です。収入が増えてもその分を使い切る生活を続けていけば、知らず知らずの間に高コスト体質に

なっているものです。定年退職によって収入が大幅に減る前に、「そもそもこれは必要な出費なのか」と、ご家族で話し合ってみるといいでしょう。

まずは「使途不明金」を無くしましょう。既存の品で代用することにより新規購入を控える工夫も効果的です。

事業仕分けで支出がスリムになったら、浮いた資金を「成長戦略」に振り向けたいものです。成長の基礎となるのは将来を見据えた投資。これまた国家戦略と同じですね。